

## 1 自己評価

- I 評価結果（別紙参照）
- II 分析・改善方策（別紙参照）

## 2 学校関係者評価委員名

|              |                    |
|--------------|--------------------|
| 岡崎 正和（学校評議員） | 今田 章子（学校評議員・PTA役員） |
| 金田ゆかり（学校評議員） | 辻 美奈（PTA役員）        |
| 畦 浩二（学校評議員）  | 三好 ゆみ（PTA役員）       |
| 猪木 健二（学校評議員） | 高村さな恵（PTA役員）       |

## 3 学校関係者評価

コロナ禍で行事に中止や制限がある中でも、状況に応じて工夫を凝らして進めている点は評価できる。特にオンラインを活用した姉妹校交流は従前より活発になる可能性を秘めており、今後の活動に期待したい。来年度は行事経験のない学年が3学年揃うので、卒業生と連携するなど生徒間での伝統の継承方法を検討してほしい。

来年度からの一人1台端末導入にむけた研究が進んでおり、今後も組織的に継続してほしい。ICTを活用した授業スタイルを確立していく時代になっており、それがどのように学力向上に寄与しているか、例えば、教員の意見を集約するなどして検証してもよいのではないか。一方、教科への質問が少ないという現状は改善すべき点と考える。教員と生徒の接点の場を意図的に増やすなど、対応をお願いしたい。

プレゼンテーションは、説明の手順、説得力のある説明の仕方など、創造的かつ知的な作業であり、総合的な探究の時間を中心に全員が経験し論文作成までできていることはすばらしく、今後も取り組んでほしい。

## 4 来年度の重点取組

個別最適化・協働的な学びを主軸に置き「学習スタンダード」を活用した授業改善による思考力・判断力・表現力の醸成に一層努める。さらに、自分自身がどのような姿勢で生きるか、自分と対話し本質的な問いを立て自分の本分に気づき考えを深める場面を一つでも多く用意する。そのために校内外の様々な学習機会を整え、ICTの効果的な活用を一層進める。特に校内ネットワーク環境整備は急務である。この取組の中で3ポリシーを検証し、各取組が持続可能なものとなるように組織化する。

①様々な場面での経験を振り返り、より豊かな人生を目指して行動する力

| 手立て                          | 担当  | 具体的方策  | 昨年度までの状況（課題）と改善の方向性   | 評価Aの基準  | 中間期取組結果   | 中間評価  | 最終取組結果  | 最終評価   | 結果の分析及び改善方策   |
|------------------------------|---|--|---|---|---|---|---|--|---|
| 保護者・地域等との連携による体験的な活動の充実      | 総務課   | ・生徒が中心となり、保護者や地域の方と連携してグリーンクリーン大作戦を開催し、奉仕活動に取り組むよう働きかける。   | ・参加動機が「芳泉まごころボランティアの一つであるから」と回答している生徒が70%弱あり、必ずしも積極的な動機ではないことがうかがえるが、実際の清掃活動に対しては、「他者と協力し、主体的に清掃活動をすることができた」と回答した生徒が70%程度あり、主体的に活動できたと考えられる。<br>・主体性を高めるために、生徒が見通しをもって参加できるよう方策を検討する。例えば、事前打ち合わせに参加する、地域からの良い評価を紹介する、等が考えられる。 | ・新たに組織されたグリーンクリーン大作戦実行委員会が中心となって行事を運営することができた。  | ・生活委員会を中心とした実行委員会を組織し、行事の段取りや進行に参画させることができた。参加者も生徒635名、保護者55名など非常に多く、実行委員会の生徒は充実感や来年度への課題を口にしていった。来年度の企画を早い段階から進めることでより効果的な取り組みになるよう取り組みたい。   | A   | ・生活委員会を中心とした実行委員会を組織し、行事の段取りや進行に参画させることができた。参加者も非常に多く、実行委員会の生徒は充実感や来年度への課題を口にしていったが、年度終わりで委員が交代することもあり、事後指導や次年度に向けての準備等は、実施できていない。  | A  | ・実行委員会を立ち上げて実施するということは、4月末段階での決定であったため、生活委員会の立ち上げ段階では十分な打ち合わせができていなかった。その後、コロナの感染拡大を受けて延期を決定したが、直前になるまで実施できるかどうか不明確であったため、準備不足は否めなかった。来年度は、年度当初から実施主体が生活委員会を中心とした実行委員会であることを確認しながら、時間をかけて準備を進めていきたい。<br><br>【評価委員】<br>・実行委員会が組織されたことで、生徒の主体性ができたようで良かったと思います。   |
|                              | 生徒課   | ・外部団体、地域(区役所、連合町内会、公民館)と協力して、社会と連携した活動の情報を提供する。また、年間の目安や過去の事例を示し、計画的な参加を促す。                        | ・コロナウィルスの影響で地域、外部と連携した活動はできなかった。<br>・校内での活動も対象とし、外部との連携が困難な場合でも、主体的な活動を通じた成長の機会を確保する。   | ・学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合「社会貢献活動を通じて自分の成長を感じ、満足できた」70%以上  | ・学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合「社会貢献活動を通じて自分の成長を感じ、満足できた」70%以上  | A   | ・保護者と連携した「グリーンクリーン大作戦」、年次単位での「校外清掃活動」、南公民館主催「夏ボラ」は実施できたが、その他の外部と連携したボランティアの機会は少なかった。<br>・状況が好転した後については、生徒に案内し、取り組むことができた。<br>・芳泉、浦安学区の老人クラブ(地域の社会人)と連携した新たな活動が始まった。   | A  | ・コロナ禍により例年通りの活動はできなかったが、機会を捉えて実施できた。<br>・ボランティア、奉仕活動の趣旨を生かせば、校内での活動に切り替えることも可能なので、来年度は啓蒙していきたい。<br>・地域社会人との交流をさらに進め、地域とのつながりを促進したい。   |
| 生徒自身が自らの成長を振り返るポートフォリオの指導と活用 | 進路指導課                                       | ・ポートフォリオの3年間を通じた指導手順を改善する。   | ・ポートフォリオの3年間を通じた作成手順ができた。<br>・作成時に必要なデータが不足していたり、うまく活用できないケースが見られた。   | ・ポートフォリオの3年間を通じた作成手順を改善できた。   | ・3学年次では調査書や志望理由書の作成時に生かせるよう入力方法や内容の改善を図った。<br>・1・2学年次では振り返りの内容を改善する。  | B   | ・3学年次では、進路の方向性を確認しながら担任が生徒に課外活動やオープン講座の参加を促し、毎回の活動内容を入力させることで、出願書類作成に生かすことができた。<br>・1・2学年次では、ポートフォリオの記載内容、講座参加履歴などを参照しながらワークシートに記入させ、生徒が見直しを持ったり、振り返ったりする機会になった。<br>・特に総合型、学校推薦型選抜出願時に書類に記載する事実が不足する生徒が依然見られた。        | B  | ・ポートフォリオ作成の手順、時期は適切だったので、来年度もおおむね今年度を踏襲して実施する。<br>・総合型、学校推薦型選抜出願の増加に伴い以前より多くの生徒が早い時期に作成する状況を踏まえて、2年次から志望理由書等の指導を行えるようにポートフォリオの指導手順を改善する。<br>・出願書類に記載する事実を蓄積する機会を確保する。<br><br>【評価委員】<br>・入学後から3年間を通して、興味や進路など考えが変わる場合も多いので、いざ受験を目前にして、推薦を受けたいが1・2年次の活動がほとんど志望先が求めるような活動では無かったという場合も多いと思います。<br>・1年次はまだ質より量を重視してもいいのではないかともしました。先輩方の活用の具体例を示して、必要性や意義をしっかりと指導していただければと思います。 |
|                              | 1年団   | ・校内外の活動をポートフォリオにまとめて活動の振り返りに活用することで自らの成長につなげさせる。<br>・進路手帳メモリーを活用させ、自己管理能力を高められるよう促す。               | △   | ・活動をポートフォリオにまとめて、メモリー化して活用できた。<br>・日々の予定や活動をメモリーに書き込み、自己管理に活用できた。<br>・5月の集会で各種活動への参加とふりかえりの意義を指導した。5月に夢ナビの講義視聴を全員に課し、オープン講座には8月末で延べ113人が参加するなど、多くの生徒が校内外の活動に参加してポートフォリオを作成できている。10月4日のLHRで、これらを電子データとして整理・統合し、前期のふりかえりと後半の計画作成を行う予定である。<br>・メモリーは、講演会や集会等の記録用としては活用できているように見受けられるが、予定や課題の管理用としては個人差がある。紙のポートフォリオとの棲み分け方法についても検討の余地が残っている。 | ・1月24日現在、学年で延べ406人が土曜オープン講座等に参加し、ポートフォリオの作成をできている。8月の113人から293人であるので、後期は、より意識を持って講座等に積極的に参加できた。<br>・学校アンケート(生徒)「メモリーを有効に活用している」では「①当てはまる②や当てはまる」が52.7%、「④あまり当てはまらない⑤当てはまらない」が33.2%であった。面談、集会をはじめ、授業でも活用している姿勢も見受けられる。 | B   | ・1月24日現在、学年で延べ406人が土曜オープン講座等に参加し、ポートフォリオの作成をできている。8月の113人から293人であるので、後期は、より意識を持って講座等に積極的に参加できた。<br>・学校アンケート(生徒)「メモリーを有効に活用している」では「①当てはまる②や当てはまる」が52.7%、「④あまり当てはまらない⑤当てはまらない」が33.2%であった。面談、集会をはじめ、授業でも活用している姿勢も見受けられる。 | B  | ・まだ一度もポートフォリオの提出がない生徒が気になるが、2年次では数より質にこだわり、より自らの進路希望の意欲向上につながるようになる。(ただ活動に参加し、ポートフォリオの整理、で終わるのではなく、その経験から具体的な行動につなげる)<br>・今年度、GoogleのGWSを様々な面で活用しており、過年度と比べて、アンケートの数値が低下する懸念もあったが、様々な面で、デジタルだけでなく紙媒体のよさを活かしても自己管理もできている生徒も多い。1年次の2月に行う1年間の振り返り、紙での全体を見通せるよさを再認識させ、次年度のメモリーの活用の仕方を意識させる。   |
|                              | 2年団   | ・校内外の活動をポートフォリオにまとめて活動を振り返らせ、成長を促すとともに面談等の進路指導に活用する。<br>・進路手帳メモリーの利点を知らせ活用させることで、自己管理能力を高められるよう促す。 | ・活動をポートフォリオにまとめて、前期と年度末の振り返りに活用して電子データ化できた。<br>・進路手帳メモリーの活用について、Google Workspaceの利用により、使用頻度が減った。  | ・ポートフォリオを活用して、生徒が自分の成長を振り返ったり、教員が進路指導に活用できる状態になった。<br>・メモリーの活用を主体的に行うことで、自己管理ができるようになった。  | ・12月に行事の振り返り、年度末に年間の活動の振り返りLHRを実施し、これまでの活動の反省と今後の課題について考えさせたい。<br>・メモリーの活用方法、活用の意義を4月年次集会で伝えた。また、集会等に持参してメモを取るよう促し、実際の活用場面を設定した。しかし、学校アンケート(生徒)では活用している生徒は36.2%に留まっているので、さらに具体的な活用場面を増やして使用させたい。                      | ・行事および年間の活動の振り返りLHRを実施し、活動の反省をさせた。また、活動内容をデータ化できた。これを活かして志望理由書を書く練習をさせた。<br>・メモリーは年次集会以降持参させ、メモを取らせる具体的な場面を設定したり、担任面談において相談内容を記録させたりすることで、活用場面を増やして活用させた。しかし、それ以外での各自の活用は少ない。 | B   | ・代替行事の振り返り作文を書かせたが「どこに行くかではなく、誰と行くかが大切」などの友人とのつながりに関する記述が多かった。人との関わり方の大切さについて実感できたようだった。<br>・メモリーに関して、GWSの普及により生徒だけでなく教員の間でもその使用頻度に個人差が出ており、また使用意義についても意見が様々なようになっていく。メモリーの活用について関係各所で検討していく必要がある。 | B   |
| 3年団                          | ・ポートフォリオを活用して、志望理由書作成に生かすなど、進路実現に向け、取り組ませる。 | ・ポートフォリオやメモリーを活用することで、自己管理を行い、進路の意識を高めた。   | ・ポートフォリオなどを有効活用して、志望理由書作成するなど、進路実現に生かすことができた。   | ・生徒が推薦入試で志望理由書作成や面接にデータを有効活用できた。<br>・担任が面談や調査書作成でデータを有効活用できた。   | ・ポートフォリオを活用し総合型入試・学校推薦型入試の志望理由書作成など進路実現にいかすことができた。<br>・担任が、データを活用し、面談や調査書作成に生かすことができた。  | B   | ・生徒が入力したデータを活用することで、業務の効率化につながった。<br>・入学時から進路実現に向け、より良いデータの活用方法を検討していく必要がある。  | B  | ・生徒が入力したデータを活用することで、業務の効率化につながった。<br>・入学時から進路実現に向け、より良いデータの活用方法を検討していく必要がある。  |

②対話や議論を通じ、多様な人々と協働する力

| 手立て                           | 担当        | 具体的方策   | 昨年度までの状況(課題)と改善の方向性  | 評価Aの基準   | 中間期取組結果  | 中間評価 | 最終取組結果   | 最終評価 | 結果の分析及び改善方策  |
|-------------------------------|-----------|---|--|--|--|------|--|------|--|
| 教科スタンダードに基づくアクティブ・ラーニング型授業の実施 | 教務課       | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート及び研究授業についての教科会議を実施する。</li> <li>図書館での授業もコロナ禍の中でも年間157時間であった。</li> <li>iPadによる授業や検索等、ICTの活用に役立てる方策を開拓する。</li> <li>図書の貸出だけでなく、インターネット検索、生徒間の交流による情報収集の場としての図書館利用を促進する。</li> <li>カルチュラルラーニングを通して自発的な行動を促す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で作成確認した学習スタンダードを意識した授業づくりを進める。</li> <li>図書館での授業もコロナ禍の中でも年間157時間であった。</li> <li>iPadによる授業や検索等、ICTの活用に役立てる方策を開拓する。</li> <li>カルチュラルラーニングは昨年度は休止にならざるをえなかった(例年のべ40名前後が参加)。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>前期、後期各1回以上授業アンケート及び研究授業について教科会議が実施された。</li> <li>学校アンケート(教員)の学習スタンダードに関する項目で肯定的回答が80%以上となる。</li> <li>図書館を利用した授業が年間180時間(書籍利用も含む)以上となり、図書館授業活用アンケートの実施の結果、深い学びへとつながる成果が見られた。</li> <li>カルチュラルラーニング参加者がのべ50名ある。かつ実施場所や提携施設の新規開拓が1箇所以上ある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートは7月に従来の紙媒体で実施。同時にICTでの研究も並行し問題点を探る。後期はICTでの実施に。研究授業は11月の芳泉コミュニケーションデーを中心に実施予定である。</li> <li>教員自己評価アンケート「学習スタンダードを意識して、授業づくりを行っている」への肯定的回答…78.8%(昨年度同時期77.0%)</li> <li>7月末現在の貸出冊数…3.70冊(昨年度同時期3.70冊)</li> <li>6か月間の図書館利用の授業…114時間(2年前同時期56時間)(昨年度コロナ禍による2か月での実績34時間)</li> <li>カルチュラルラーニングは岡山地方検察庁、岡山県立美術館、吉備路文学館で実施。のべ45名の生徒が参加。(2年前は46名が参加)吉備路文学館は今年度からの実施である。</li> </ul> | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートは7月及び11月に実施。研究授業は11月の芳泉コミュニケーションデーを中心に実施した。</li> <li>教員自己評価アンケート「学習スタンダードを意識して、授業づくりを行っている」への肯定的回答…79.0%(目標の80%に届かず)</li> <li>12月末現在の貸出冊数…7.0冊(コロナ禍の最も大きかった昨年同時期7.1冊に及ばず)</li> <li>12月末現在の図書館を利用した授業時間数…200時間(前々年同時期151時間)、うちiPadを利用した授業168時間</li> <li>カルチュラルラーニングはコロナ禍前の状況に戻った。加えて新たな研修場所ができた。</li> </ul>   | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習スタンダードを意識した授業については、十分に浸透し教員の意識が高まったとみている。今後は学習スタンダードを生徒が十分に意識しなかったら授業を受けられるような機会を増やしていきたい。</li> <li>図書館の利用については、コロナ禍の影響下、朝読書・ビブリオバトル・ブックハンティングなどの図書館行事中止等があったにもかかわらず、新規で授業に利用したり、総合的な探究の時間での生徒への図書貸出、土曜講座、ティーチン、グローバルワークショップ等での利用なども見られた。また、iPadなどのICT機器の利用が進んでおり、今後のICT活用の広がりにもつながると考えている。</li> <li>カルチュラルラーニングも従来通り実施できた。新たな研修場所を開拓し、選択の幅が広がるようにしたい。</li> </ul>   |
|                               | 情報企画課     | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器のトラブル及び活用法について、必要な情報やマニュアル、活用事例がいつでも誰でもアクセスできるような情報をまとめ、ICTを活用したアクティブラーニング型授業へのハードルが下がるようにする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート(教員)「ICT機器が効果的に活用できている」の評価点が3.0であった。</li> <li>学校アンケートの「ICTを活用した授業を実践している。」について、肯定的な回答が教員は94.4%だったことに対し、生徒は66.8%にとどまった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート(教員)の評価点「ICT機器が効果的に活用できている」3.5以上。</li> <li>学校アンケート(生徒・教員)の肯定的回答の割合「ICTを活用した授業を実践している」80%以上。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>前期授業アンケート(教員)「ICT機器が効果的に活用できている」の評価点は3.19、学校アンケートにおける「ICTを活用した授業を実践している。」について、肯定的な回答は、教員が85.5%であったことに対し、生徒は64.4%となった。</li> <li>教員の公務や教材作成、情報共有の部分ではICTの活用が進んでいることに対し、授業など生徒の目につく部分でのICT化が進んでいないことが伺える。各教科と連携しながら授業で何が必要か、何が足りないかを把握し、整備を進めていきたい。</li> </ul>   | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>後期授業アンケート(教員)「ICTが効果的に活用できている」の評価点は3.21と昨年度後期の3.20とほぼ横ばいであった。機器やインフラの整備、各種マニュアル作成および研修を行ったがニーズにあっていないものであった可能性がある。また、令和4年度入学生から導入される一人一台端末に対する不安も感じる。</li> </ul>  | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>後期から貸し出し用iPadを談話室に整備したことで、生徒がiPadを活用する場面は格段に増えたように思う。さらにICT活用が進むためにはどのような情報が必要なのか、教員生徒の声を聞きながら企画していく、事例の集約と職員間での共有を一層進め、来年度のアンケートでは生徒の肯定的な回答80%以上、教員の評価点3.5以上を目指したい。</li> <li>【評価委員】</li> <li>一人一台端末導入に向けて、生徒も保護者も期待が高まっていると思います。子供の話を聞くと、YouTubeで予備校講師や個人で授業や解説動画を配信している物を、生徒同士が情報共有して「あの動画はわかりやすい」というのを聞いたことがありますが、本当に正しい解説なのか？そちらに傾倒して、学校の授業を疎かにしたり、先生との信頼関係が築けないなどの事が無いように、どのような動画を生徒が見ているのかの情報収集等、対策も必要かなと思います。</li> </ul> |
|                               | 学力向上推進委員会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の1人1台端末の導入、新学習指導要領の施行を見据え、各教科で、ICTおよび学習スタンダード(育成したい資質・能力)を活用した授業の研究、実践を行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「ICTを活用した授業スタイルを確立していく時代になっており、いかに効果上がるかという観点から、生徒の身になる活用方法の研究を進めてほしい。」(学校関係者評価委員からの意見)</li> <li>教科の学習スタンダードを意識した授業の取組について、「ほぼ毎時実施した」60%、「単元または定期考査ごとに1回は実施した」32%であった。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ほぼすべての教員が、ICTを活用した授業の研究を行うことができ、教科内でその取組が共有できた。</li> <li>ほぼすべての教員が、各教科で作成した学習スタンダードに基づいた授業を行うことができた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>前期終了時点で、授業改善アンケートをとった(①ICT活用に関して取り組んだこと、②今後取り組んでいきたいこと)。教科ごとに取組状況をまとめ、10月の職員会議資料に載せ、校内で共有を図った。後期の授業改善、および11月の芳泉コミュニケーションデー(公開授業)に向けて活用していきたい。</li> <li>学習スタンダード(育成したい資質・能力)をICTの活用を取り入れたものを追加更新し、生徒、保護者に文書で通知(5月の定期考査①の通知表に同封)、教室掲示し周知した。生徒による授業アンケートの集計によると、「学習スタンダードに基づいた活動が取り入れられている」の教科全体の平均が3.54点/4(昨年比+0.08)で、学習スタンダードが校内で浸透しつつある。</li> </ul>                             | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>「ICTを組み込んだ『主体的・対話的で、深い学び』を展開し、生徒の思考を促す授業づくり」を研究テーマとした芳泉コミュニケーションデー(公開授業)を実施した(11月18日)。</li> <li>12月末に実施した授業改善アンケートで、①ICT活用の取組状況(自身の授業実践例、今年新たにやってみたこと、できるようにしたこと)、②他の先生の授業参観等で、勉強になった(これから自分もやってみようと思った)ICT活用事例を自由記述してもらい、1月の職員会議で共有した。</li> <li>学習スタンダードを意識した授業の取組状況(授業改善アンケート結果より)</li> <li>ほぼ毎回実施した … 53%</li> <li>単元または定期考査ごとに1回は実施した … 40%</li> <li>年間1回実施した … 7%</li> <li>実施しなかった … 0%</li> </ul> | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度から始まる生徒一人一台端末の導入を見据え、授業改善アンケート(ICT活用)で取りまとめた今年度の各教員の取組、他の教員の参考となる実践事例を校内に広めていきたい。</li> <li>育成したい資質・能力に基づいて作成した教科の学習スタンダードを意識した授業を、「ほぼ毎回実施した」53%で、前年度(60%)よりやや減少したものの、「年間1回以上実施した」教員が100%に達した。授業改善、定期考査の作用において、自身のためになったこととして、「他の教員の授業参観」を挙げる教員が1番目に多く(授業改善アンケート集計結果より)、次年度以降も学習スタンダードを意識した授業づくりを引き続き推進していきたい。</li> </ul>   |

| 手立て                   | 担当             | 具体的方策   | 昨年度までの状況(課題)と改善の方向性   | 評価Aの基準  | 中間期取組結果  | 中間評価 | 最終取組結果  | 最終評価 | 結果の分析及び改善方策  |
|-----------------------|----------------|---|---|---|--|------|---|------|--|
| 生徒が主体的に企画・運営する教育活動の推進 | 生徒課            | ・蒼碑祭について、生徒会、実行委員会を中心に蒼碑祭の計画、運営を行う。<br>・月単位のキャンペーンなど各種委員会に新たな活動を加える。<br>・交通、いじめ防止のLHRを生徒が運営する。  | ・コロナウィルスの影響で従前の活動は制限された。<br>・従前の活動を見直し、主体的、対話的に協働できる環境を整える。<br>・他者の考えを共有、共感することで、安心、安全な環境をつくる。<br>・いじめ・暴力等他者に危害を加える特別指導事件0件。                    | ・学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合<br>「蒼碑祭を通じて自分の成長を感じ、満足できた」90%以上。<br>「安心して登校できる学校である」90.2%以上。<br>「サイクルマナーについて理解し、行動できた」90.2%以上。<br>・年間交通事故件数13件<br>・いじめ・暴力等他者に危害を加える特別指導事件数1件<br>・学校祭については、コロナ禍・市総合文化体育館での初開催であったが、生徒、教職員の協力で成功裏に終えることができた。<br>・いじめ、自転車事故については、認識の差が行動に現れた結果と思われる。後期は、SHRや委員会活動を通じて啓発したい。  | ・学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合<br>「蒼碑祭を通じて自分の成長を感じ、満足できた」90%以上。<br>「安心して登校できる学校である」98.0%以上。<br>「サイクルマナーについて理解し、行動できた」90.2%以上。<br>・年間交通事故件数13件<br>・いじめ・暴力等他者に危害を加える特別指導事件数1件<br>・学校祭については、コロナ禍・市総合文化体育館での初開催であったが、生徒、教職員の協力で成功裏に終えることができた。<br>・いじめ、自転車事故については、認識の差が行動に現れた結果と思われる。後期は、SHRや委員会活動を通じて啓発したい。   | A    | ・交通事故13件(昨年度16件)<br>・いじめ・暴力等他者に危害を加える特別指導事件数…1件(昨年度0件)<br>・不愉快な思いをし、要観察中の人数…7件(昨年度6件)<br>・交通安全委員会運営の「交通安全LHR」を1回、HHR委員会運営の「いじめ防止LHR」を2回実施。個人の考えや思い等をFORMSで集計、スプレッドシートで共有し、共感を深めた。   | A    | ・蒼碑祭については、コロナ禍の中、適切な対応ができ、自覚をもって楽しむことができた結果である。形態、日程等は柔軟な対応が必要である。<br>・学校生活については、「認識の差」が問題である。「自己満足」とは一線を画した「共感性」を養い、周囲を安心させる言動につなげる。<br>・交通については、ルールの把握、運転マナーの向上に加えて、周囲の状況を把握したり、他者の行動を予測することを呼びかける。<br>【評価委員】<br>・コロナ対策で、できなくなったこと(模擬店や体育の部の競技等)が経験のない学年だけになってしまい、せっかく受け継がれてきたものがなくなってしまうのではないかと心配です。来年度以降は卒業生に呼びかけて残し続けてもらう等の情報収集や手伝いに来られる卒業生に呼びかけるなども必要かなと思いました。 |
|                       | 保健安全課          | ・LHRや委員会活動を充実させ、生徒が主体的に企画運営する行事を通じて達成感や満足感を味わせる。<br>・防災訓練を実施し、保健LHRや日常の清掃活動の充実をはかる。<br>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により様々な行事を中止・変更が余儀なくされ、学校アンケート(生徒)の「防災意識の向上」の項目は、数値が下がった。<br>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に合わせて、デジタルコンテンツを利用するなどLHRの実施方法・内容を考えてゆく。 | ・生活委員、保健委員へのアンケートの肯定的回答の割合<br>「委員会活動を通じて達成感や満足度を得ることができた」85%以上<br>・学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合<br>「自ら校内美化に努めている」70%以上<br>・避難訓練を通じて、防災に対する意識が向上した」70%以上 | 生活委員会として<br>・清掃用具の点検を行い補充・交換を行った。<br>・美化意識を高める為に1人1枚ずつ啓発ポスターを作成し掲示した。<br>・清掃点検を行い、日々の清掃が十分に行えるようにした。<br>・今年度は避難訓練を実施(ただしグラウンドまでの移動はせず)、スマホを使って河川はん蓋情報等取得して生徒の防災意識を高めた。<br>・保健委員会として<br>・保健委員主導型の保健LHRでは、学校薬剤師と協力して動画作成を行い、昨年中止となった「薬物乱用防止教室」を全校生徒対象に実施した。各クラスで動画視聴を行い、危機管理意識の向上を図ることができた。大変効果的な保健指導の実践ができた。<br>・手指消毒薬の点検補充・アルコールの補充やウォータークーラーの点検など定期的に行うことができた。 | ・生活委員、保健委員へのアンケートにおける肯定的回答(「達成感・満足度」)<br>生活委員は96.8%<br>保健委員は95.6%<br>・生活委員が中心となり防災LHRを実施して意識の向上を図ることが、様々な制約から通常通りの訓練ができなかった。<br>・保健委員は、保健LHRの運営(2回)や環境・広報・調査の班活動についての達成感が高かった。(75%)また蒼碑祭展示も活発に活動できた。冬季においては換気の呼びかけ等も率先して行うことができた。<br>・学校アンケート(生徒)の肯定的回答の割合<br>「自ら校内美化に努めている」70.5%(昨年度69.4%)<br>「防災訓練を通じて、防災に対する意識が向上した」68.1%(昨年度52.9%) | B    | ・委員生徒へのアンケートでは「満足感・達成感」が高く、自主的に校内の美化活動や生徒の健康管理に関わろうとする意識も高まったようである。特に保健委員は、感染予防を考慮し創意工夫しながら活動できた。<br>・学校アンケート(生徒)の「自ら校内美化に努めている」で数値が上昇した。今後も生活委員を中心に校内美化の啓発活動をしていきたい。<br>・「防災意識の向上」では大幅に数値が上昇。来年度も状況(新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況)に合わせて、いつどこでおこるかわからない災害に備えて、防災訓練の内容や取り組み方を考えていきたい。<br>・今年度、学校三師の協力のもと動画による保健LHRができたことで、次年度も健康課題に応じた保健LHRを実施したい。 |      |  |
|                       | 1年団            | ・蒼碑祭や球技大会などの学校行事で、生徒に主体的に企画・運営に取り組ませるための仕掛けをする。<br>・委員会等、HHRでの役割を主体的に取り組ませるための仕掛けをする。   | ・蒼碑祭や球技大会で、生徒が主体的に企画・運営に取り組んだ。<br>・生徒がHHRでの役割を自覚し、責任を持って主体的に活動することができた。   | ・学年統一で共通の仕掛けを求めるのではなく、各クラスで独自色を出しながらの工夫をお願いしている。<br>・蒼碑祭準備では係ごとにリーダーを設けて運営を任せたり、SHRで30秒スピーチや新聞を用いた発表の場を設けたりするなど、それぞれのクラスで生徒が主役となる場をつくるよう工夫がされている。後期は、クラス間でアイデアを共有したり、生徒側からアイデアが出てくるような仕掛けを考えたりすることを検討したい。   | ・あるクラスでは、生徒が主体でGoogleのGWSを用い、定期ごとにテスト範囲や提出物をまとめたプリントを作成し、クラスで共有する等のこれまでの芳泉高校ではおそろそろなかった新たな取組も見られた。また12月の芸術鑑賞会でもリアルタイムで生徒がコメントを発することができるようなチャレンジも生じた。<br>・年次集会で生徒がメインで話をする時間を設けたり、1月開催した百人一首大会でも、多くの面で係の生徒が活躍したりと、行事での生徒が主体的に関わる仕掛けがあった。  | B    | ・中間期取組にもあるが、各クラスの独自色をお願いしていたため、担任の先生方も生徒も、やらされている感じがなく、新たな取組ができてきた。<br>・コロナの影響が、48期の生徒は教科への質問も少なく、困ったことがあってもすぐにには相談にこない気質が見られる。日頃の教育活動を通じて、教員と生徒が信頼関係を築き、思いを自分の中から自分の言葉で発することができるようになってほしい。その一助として、GoogleのGWSを有効活用したい。  |      |  |
|                       | 2年団            | ・蒼碑祭、球技大会、修学旅行などの学校行事で、生徒に主体的に企画・運営に取り組ませる。<br>・委員会等、HHRでの役割を主体的に取り組ませる。  | ・蒼碑祭では、感染症対策も含め、短い準備期間で計画的に活動に取り組むことができた。<br>・球技大会では感染症対策に気を付けながら、生徒の主体的な運営のもとに実施できた。<br>・委員会でのLHR運営など、その職責をきちんと果たすことができた。                      | ・学校行事で、生徒が主体的に企画・運営に取り組んだ。<br>・生徒がHHRでの役割を自覚し、責任を持って主体的に活動することができた。   | ・蒼碑祭では、動画制作、バックキャンパス制作など各クラスで生徒が主体的に活動することができた。一人一人が個性やその能力を十分に発揮し、完成した作品にも創意工夫が見られた。12月には生徒主体で企画運営する球技大会を実施させた。<br>・学校評価アンケート(生徒)「蒼碑祭を通じて自分の成長を感じ、満足できた」では全体の81.7%がおおむね満足していたが、他学年よりはやや低い結果であった。  | B    | ・蒼碑祭で、生徒それぞれが個性と能力を発揮して活動に貢献できた。12月の球技大会では協力して勝利に向けて努力できた。修学旅行代替行事では倉敷お笑い藤山方面ではあったが、地元の良い文化、歴史の再発見、友人とともに過ごす時間の大切さなど多くのことを学ぶことができた。   |      |  |
|                       | 3年団            | ・蒼碑祭など学校行事に、生徒が主体的に取り組む、企画・運営で力を発揮できるように働きかける。  | ・修学旅行などの学校行事の変更にも、それぞれの場面でスムーズに対応できた。   | ・蒼碑祭など学校行事に、生徒が主体的に取り組む、リーダーシップを発揮し、最上級生として活躍できた。   | ・蒼碑祭体育の部では、1年次は本校グラウンド、2年次はジップアリーナ、3年次は岡山総合文化体育館と毎年違った環境での実施となったが、それらの変更に対応し、実行委員を中心に主体的に取り組むことができた。   | B    | ・蒼碑祭体育の部では、実行委員の生徒を中心に行事を盛り上げようとする意図で取り組んだ。クラスでもリーダーを中心に協力し、それぞれのクラスの個性を発揮したパフォーマンスができた。  | B    | ・生徒がそれぞれの立場や場面で主体的に活動できるように、入学年時より3年間を通して働きかける。  |
|                       | グローバル人材育成推進委員会 | ・生徒(生徒会)が主となる姉妹校交流を実現させる  | ・直接交流の代替としてのオンライン交流を試験的に行ったが、内容も時間も十分とはいえなかった。姉妹校との交流について生徒自らが考えることで、姉妹校生徒という友人のことを意識させ、継続的な交流につなげたい。   | ・生徒が企画するオンラインでの交流事業を1回以上、実施できた。   | ・本校にとっての新学期開始時期から夏休みまでの間、姉妹校側はオンライン授業の形であり、前半の具体的な協議はできなかった。現在、観戦光臨の協力もお願いし、岡山後楽園を姉妹校生徒に紹介する動画を生徒が作成中。併せて担当者間でオンライン交流の日程と形式を調整中。   | B    | ・後楽園の紹介動画は英語の字幕も含めて生徒たちの手で完成し、HPにアップした。また姉妹校とのオンライン交流については、「環境保護」をキーワードに両校で英語によるレポート発表、及び意見交換を行うことができた。   | A    | ・希望する生徒たちの活躍により、定期的な交流の土台ができた。次年度に向けても同様の形で交流が可能となりそうである。<br>【評価委員】<br>・姉妹校とのオンライン交流は素晴らしい。コロナで人的交流の在り方が一変しましたが、逆に台湾の姉妹校との交流が活発になる可能性を秘めており、今後の活躍に期待します。   |

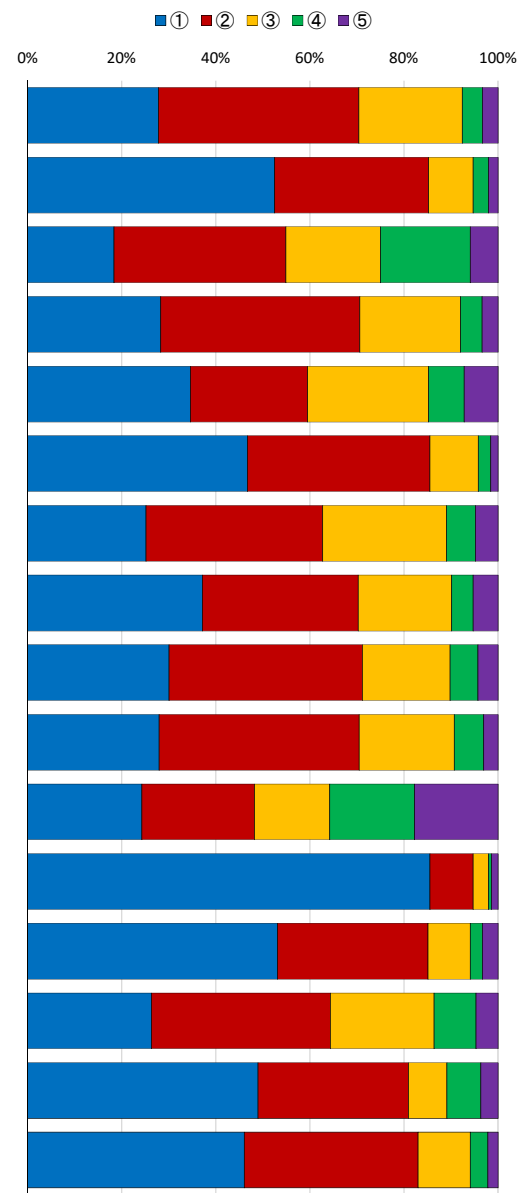
③先人の考えを理解し、社会との関わりを持って新しいものを創造する力

| 手立て                               | 担当        | 具体的方策   | 昨年度までの状況(課題)と改善の方向性   | 評価Aの基準   | 中間期取組結果  | 中間評価 | 最終取組結果   | 最終評価 | 結果の分析及び改善方策  |
|-----------------------------------|-----------|---|---|--|--|------|--|------|--|
| 社会との関わりを意識した「総合的な探究の時間」のカリキュラム開発  | 教務課       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会に開かれた教育課程」のカリキュラムマネジメントを構築する。</li> <li>・「総合的な探究の時間」の組織的な運営をさらに進める。</li> <li>・カルチュラルラーニングとの連動をすすめる。</li> <li>・懸賞論文、外部コンテスト、読書感想文等への応募を通じて自らの考えを発信することができる。</li> <li>・「個別最適化」とともに主体性を持って取組ができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」での探究活動を重視したカリキュラムで進められている。</li> <li>・アクティブラーニングを重視した授業カリキュラムにより、自らの意見を述べ、他人の考えを聞き、まとめる力を養うことを目的としている。</li> <li>・さらに踏み込んだ発言のため知識と論理的思考をはかる必要がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」を通じて自らの意見を論理的に説明できるようになったと感じる生徒が80%以上になる。</li> <li>・論文、感想文、プレゼンテーションに関して社会との関わりを自分の考えで発信し、参加する人数が半数の160名以上である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングを重視した授業、自らの意見を述べたことに対して、他人の考えを聞き、まとめることが生徒にとっては日常的なものになっている。コロナ禍の影響の中でも柔軟な対応で実施できた。</li> <li>・プレゼンテーション参加にはほぼ全員が何らかの形で関わったと言えるが、6000字論文の提出及び満足度をはかるのはこれからである。</li> <li>・授業全体での生徒の興味関心の高まりは81.8%を示し、個別満足度も高くなっている。</li> </ul> | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングを重視した授業、自らの意見を述べたことに対して、他人の考えを聞き、まとめることが生徒にとっては日常的なものになっている。コロナ禍の影響の中でも柔軟な対応で実施できた。</li> <li>・プレゼンテーション参加にはほぼ全員が何らかの形で関わり、自己の思考の整理として6000字論文の作成ができた。</li> <li>・授業全体での生徒の興味関心の高まりは81.3%（前回は81.8%）で、個別満足度も十分に高くなっている。</li> </ul> | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年次を超えて全体的、体系的に見直しを持って取り組める形がほぼできあがったと言える。今後も年次を超えた連携を一層進めていきたい。</li> <li>【評価委員】</li> <li>・論文やプレゼンテーションなど、高校生でここまで？と子供の様子を見て思っていました。学校推薦入試を受けるにあたって、それがとても力になって助けられていると感じました。</li> <li>・プレゼンテーションにはほぼ全員の生徒が関与しているとのことであり、とても心強く感じました。人とかかわる仕事は、ちょっとしたプレゼンテーションの連続です。若い時から、そのような体験をすることは素晴らしく、今後も引き続き取り組んでいただきたい。</li> </ul>   |
| 収集した情報をもとに、広く考察・思考する態度の育成(新テスト対策) | 進路指導課     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実力考査で、思考力・判断力・表現力を測る問題を教科の協力を得て作成及び検証を行う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度入試の結果等を踏まえて出題内容について情報収集及び研究を行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度入試の結果等を踏まえて、出題内容の検証を行った。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実力考査素点(英語)と入試開示結果(岡山大)の相関があることがわかり、適切であったと結論付けた。</li> </ul>  | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語、理科等で実力考査の素点と入試開示結果(岡山大)の相関が見られることがわかり、出題は適切であると分かった。</li> </ul>   | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導に資するように、本年度の入試結果についても引き続き検証を行う。データを蓄積する。</li> </ul>  |
|                                   | 学力向上推進委員会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査で、思考力・判断力・表現力を測る問題を作成及び検証(評価)を行う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新テストの傾向を意識した作問(思考力、判断力、表現力を測る問題)を「ほぼ毎回の考査で実施した」56%(前年度45%)、「1回以上実施した」74%(前年度75%)で、少しずつではあるが作問研究が進んでいる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼすべての教員が、定期考査において、思考力・判断力・表現力を測る問題を1回以上作成し、分析を行った。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査実施後、教科内の他の教員全員に問題用紙を互いに配布するよう依頼した。次年度からスタートする新学習指導要領についての共通理解、新テスト対応(思考力・判断力・表現力)問題の共有を図るなど、各教科で作問研究を進めている。</li> </ul>   | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査で、新テストを意識した作問(思考力、判断力、表現力を測る問題)の取組状況(授業改善アンケート集計結果より)</li> <li>・ほぼ毎回の定期考査で実施した… 55%</li> <li>・1回は考査で実施した… 21%</li> <li>・実施しなかったが、研究はした… 23%</li> <li>・実施・研究しなかった… 2%</li> </ul>  | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新テストを意識した作問を、「1回以上定期考査で実施した」76%(前年度75%)で昨年度とほぼ同数であった。「実施しなかったが、研究はした」を含めると98%(前年度90%)で、学校全体で作問研究が進んでいるといえる。特に、「記述問題(量)や思考過程を問う問題を増やした」「資料やデータをもとに考察させた」事例が多かった。</li> <li>・授業改善、定期考査の作問において、自身のためになったこととして、「他の教員の考査問題」を挙げる教員が「他の教員の授業参観」に次いで2番目に多い(授業改善アンケート結果より)。過日実施された大学入学共通テストで求められた新学力観(作題方針)を踏まえ、これまでの取組を検証するとともに、次年度以降も教科で考査問題の共有を引き続き行い、作問能力のさらなる向上を図っていきたい。</li> </ul> |

# 令和3年度学校評価アンケート集計結果【生徒】

①当てはまる ②やや当てはまる ③どちらとも言えない ④あまり当てはまらない ⑤当てはまらない

| 質問項目                                      | %    |      |      |      |      | ①+②  |
|---|------|------|------|------|------|------|
|   | ①    | ②    | ③    | ④    | ⑤    |      |
| (1)本校の教育は「気宇広大で包容力の大きな人間の育成」を目指したものである。   | 27.8 | 42.6 | 22.0 | 4.3  | 3.3  | 70.4 |
| (2)学習到達度別授業は、学力向上に役立っている。                 | 52.5 | 32.7 | 9.4  | 3.3  | 2.0  | 85.3 |
| (3)目標として掲げた家庭学習時間を確保している。                 | 18.4 | 36.5 | 20.2 | 19.0 | 5.9  | 54.9 |
| (4)課題の内容は適正であり、学力向上に効果的である。               | 28.3 | 42.3 | 21.4 | 4.5  | 3.4  | 70.7 |
| (5)部活動の練習日程は適切に計画されている。                   | 34.6 | 24.9 | 25.7 | 7.6  | 7.2  | 59.6 |
| (6)学校は面談等を通じて個に応じた進路指導をしている。              | 46.7 | 38.8 | 10.3 | 2.6  | 1.5  | 85.5 |
| (7)社会貢献活動を通じて自分の成長を感じ、満足できた。              | 25.2 | 37.5 | 26.3 | 6.2  | 4.8  | 62.7 |
| (8)サイクルマナーについて理解し、行動できている。                | 37.2 | 33.1 | 19.9 | 4.5  | 5.3  | 70.3 |
| (9)防災LHR(防災訓練や避難情報の収集)を通じて、防災に対する意識が向上した。 | 30.1 | 41.1 | 18.6 | 5.9  | 4.3  | 71.2 |
| (10)自ら校内美化に努めている。                         | 28.0 | 42.6 | 20.2 | 6.3  | 3.0  | 70.5 |
| (11)メモルーを有効に活用している。                       | 24.3 | 23.9 | 16.0 | 18.0 | 17.8 | 48.2 |
| (12)いじめや体罰に悩むことはなく、安心して学校生活を送っている。        | 85.5 | 9.2  | 3.3  | 0.6  | 1.4  | 94.7 |
| (13)蒼碑祭を通じて自分の成長を感じ、満足できた。                | 53.1 | 32.0 | 8.9  | 2.6  | 3.3  | 85.1 |
| (14)ICTを活用した授業が多く、理解に役立っている。              | 26.3 | 38.0 | 22.0 | 8.9  | 4.7  | 64.4 |
| (15)学校からの保護者宛文書をきちんと保護者に渡している。            | 49.0 | 32.0 | 8.2  | 7.2  | 3.7  | 81.0 |
| (16)岡山芳泉高校での学校生活に満足している。                  | 46.1 | 36.9 | 11.1 | 3.8  | 2.1  | 83.0 |

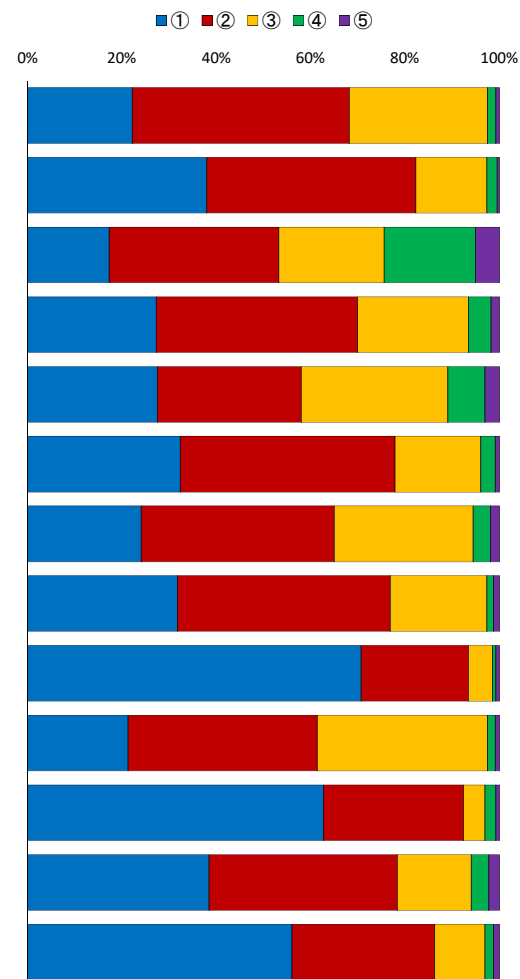


| 評価点 |     |     |
|-----|-----|-----|
| R03 | R02 | R01 |
| 4.4 | 3.6 | 3.4 |
| 6.5 | 5.7 | 5.4 |
| 2.1 | 2.6 | 2.3 |
| 4.4 | 3.7 | 2.9 |
| 3.6 | 3.7 | 3.0 |
| 6.3 | 5.3 | 5.6 |
| 3.6 | 2.3 | 3.9 |
| 4.6 | 4.8 | 4.9 |
| 4.3 | 2.6 | 3.7 |
| 4.3 | 4.1 | 3.4 |
| 1.0 | 1.5 | 2.5 |
| 8.8 | 8.5 | 8.5 |
| 6.5 | 6.3 | 6.3 |
| 3.6 | 4.1 | -   |
| 5.8 | 5.9 | 6.0 |
| 6.1 | 6.1 | 5.4 |

# 令和3年度学校評価アンケート集計結果【保護者】

①当てはまる ②やや当てはまる ③どちらとも言えない ④あまり当てはまらない ⑤当てはまらない

| 質問項目                                    | %    |      |      |      |     | ①+②  |
|---|------|------|------|------|-----|------|
|   | ①    | ②    | ③    | ④    | ⑤   |      |
| (1)本校の教育は「気宇広大で包容力の大きな人間の育成」を目指したものである。 | 22.2 | 46.0 | 29.3 | 1.7  | 0.7 | 68.2 |
| (2)学習到達度別授業は、子どもの学力向上のために効果的に行われている。    | 38.0 | 44.3 | 15.1 | 2.2  | 0.4 | 82.3 |
| (3)子どもは、目標として掲げられた家庭学習時間を確保している。        | 17.3 | 36.0 | 22.4 | 19.3 | 5.1 | 53.3 |
| (4)課題の内容は適正であり、子どもの学力向上に効果的である。         | 27.3 | 42.7 | 23.5 | 4.8  | 1.7 | 70.0 |
| (5)部活動の練習日程は適切に計画されている。                 | 27.6 | 30.5 | 31.1 | 7.8  | 3.0 | 58.1 |
| (6)学校は、進路情報を適切に提供している。                  | 32.4 | 45.6 | 18.1 | 3.0  | 0.9 | 77.9 |
| (7)学校は、交通のルールやマナーについて、きちんと指導している。       | 24.1 | 40.9 | 29.5 | 3.6  | 1.9 | 65.0 |
| (8)学校は、校内美化に努めている。                      | 31.8 | 45.1 | 20.5 | 1.5  | 1.2 | 76.9 |
| (9)子どもは、いじめや体罰に悩むことなく、安心して学校生活を送っている。   | 70.7 | 22.8 | 5.1  | 0.7  | 0.7 | 93.5 |
| (10)学校は、PTAと連携した教育活動を行っている。             | 21.3 | 40.1 | 36.1 | 1.6  | 0.9 | 61.4 |
| (11)学校からの連絡が、メール配信などによって伝わっている。         | 62.7 | 29.8 | 4.5  | 2.3  | 0.7 | 92.5 |
| (12)子どもは、学校生活に充実感や満足感をもつことができている。       | 38.5 | 39.9 | 15.7 | 3.8  | 2.2 | 78.4 |
| (13)岡山芳泉高校は、喜んで通わせたい学校である。              | 56.0 | 30.3 | 10.6 | 1.9  | 1.2 | 86.4 |



| 評価点 |     |     |
|-----|-----|-----|
| R03 | R02 | R01 |
| 4.4 | 4.0 | 4.4 |
| 5.9 | 5.3 | 5.4 |
| 2.1 | 2.2 | 1.5 |
| 4.4 | 3.8 | 3.2 |
| 3.6 | 4.1 | 3.7 |
| 5.3 | 5.2 | 4.7 |
| 4.1 | 4.1 | 4.0 |
| 5.2 | 5.5 | 5.2 |
| 8.1 | 7.9 | 7.8 |
| 4.0 | 4.4 | 4.7 |
| 7.6 | 7.0 | 5.1 |
| 5.4 | 5.4 | 5.2 |
| 6.9 | 6.9 | 6.5 |